

平成 26 年第 1 回英語教育 FD/ICT 活用研究委員会議事概要

- I. 日時 : 平成 26 年 4 月 12 日(土) 14:00~16:20
II. 場所 : 私立大学情報教育協会 事務局 会議室
III. 出席者 : 田中委員長、原田委員、五十嵐委員、小林委員、山本委員
井端事務局長。森下主幹

IV. 配布資料

- (1) Active Learning の取組
- (2) 委員名簿 (上智の吉田先生)
- (3) 事業計画書 教育の質的転換に向けた Active Learning の研究
- (4) ① 活動計画 能動的学修実現にむけた取組、対話集会
- (5) ② 対話集会について
- (6) ③ 対話集会に向けた検討事項 (本年 3 回委員会を実施予定)
- (7) ④ 授業で顕著な効果をあげている事例 (英語)
- (8) チェル 吉田先生の記事
- (9) 参考資料 1~3 (Active Learning 関係)
小林先生からの資料提供

V. 議事内容

- ・冒頭、委員長より、アクティブラーニングの事例研究、今年度中に「対話集会」(学系別)を開催する旨、説明があった。
- ・事務局より、配布資料の説明とともに、新たにメンバーとして上智大学の吉田先生が参加(次回より)との報告があった。
- ・井端局長から、以下の説明があった。

1) アカデミックスキルの英語教育について

CEFR の B1 / B2 辺りに着目して、上智は 2014 年度から必修化している
英語教育の質保証は、単なる TOEIC / TOEFL では足りない
上智大学取組み始めている。具体的な話を聞いておく必要がある。

2) Active Learning をどうするか (一方通行の授業はやめよう、チームワークの中で教え合い、学び合いをして主体的に授業に参加する)

☞ 対話集会の目的:

情報を入力し、実践取組を促進してもらう (研究で終わるのではなく)
委員会を飛び越えて、有志の先生に集まってもらい議論する
長崎大学の例 (経営入門) 手法をシラバスに書き込む必要性を示す
Learning through discussion + PBL
解のない課題を与える
予習でワーキングをさせる (ICT で可視化)
先生の振り返り (改善、提案)
事例紹介が参考になる

抜け落ちた視点: 大学の支援環境は?

ICT の活用方法は? しっかり書き込む必要あり

困難な点: 評価の難しさ (ピア (グループ) 評価どうする?)

その他、以下の説明があった。

- ☞ 6月のジャーナルで長崎大学に紹介原稿の依頼をしている
- ☞ 紙面で事前に読んでもらって、対話集會に臨んでもらう
- ☞ 安西先生のビデオ（オンデマンド）を事前に見てもらい、集會に参加してもらう（お互いに勉強してか
ら来てもらう→先生方にも反転授業を実施）
- ☞ 取組事例として、双方向のクリッカー利用も1つのスタイルとして紹介
- ☞ 教育改善モデルも事前に読んできてもらう（上智の事例も含めて）
- ☞ 意見交換（特に、失敗事例に着目して、振り返りをする）
- ☞ Active Learning の（効果の判定）評価をどうするか（科学的でない）
- ☞ 外部評価試験の利用、大学としての共通指標（私情協で考えるか）
- ☞ 運営：すべての情報を動画に収めて、配信したい（広く公開）
- ☞ 運営：2～3年やっていく。平成29（2017）年度までに結果を出す
- ☞ 運営：大学の施設を借りて、無料でできるところを選ぶ必要あり
- ☞ サイバーFD 研究員だけでなく、職員の方々にも呼びかけていく

・ 田中委員長のもとで、対話集會の議論を行った。

- ☞ 対話集會で2つのテーマを扱うならば、どのような選択をするか
 - 1) 完全シラバス（長崎大学）によるALの事例（1つ）
 - 2) 理工系の授業でのALへの落とし込みも一つの事例
英語の授業の中で、ミニ実験を取り入れたAL
東大駒場 理工系：早稲田 理工系（実験そのものはできる）
どちらかであれば、早稲田の事例がベター
 - 3) 社会科学系で事例はないか？

以下に、主な意見・コメントをあげる。

- ・ 法律分野だと、AL 難しい
- ・ 社会科学系で同じ事例がないか（特別優秀な例ではなく）
- ・ ビジコンの英語版はないか（フロアも入りやすい）
- ・ Wall Street Journal を使った授業もある（チームを組んで、読んだ学生でコンテストをする）
- ・ 英語教育の先生が主体になった授業の事例はないか？
- ・ コンテンツから入って行って、スキルにつながるもの（チームのものがよい）

以上のアイデアを踏まえつつ、第2回でまとめ方を考えていきたい。事例については、社会科学系をどうするか、もう少し時間をかけて考えることにする。

☞ 対話集會を何時するか？

2ヶ月前に案内が必要で、年内の実施は厳しい。夏休み前後にフレームワークを作り、2月下旬から3月上旬（3月6日（金）or 8日（日）を候補にして）がよい。場所については、早稲田大学（8号館）で（原田先生）。あるいは上智大学。

次回の委員会は、7月19日（土）または26日（土）のいずれかで調整する。

以上

